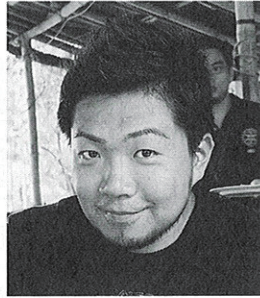


今、君たちに伝えたいこと

「生命」をテーマにした子どもたちへのメッセージ

チャレンジ券

NPO法人ACTION代表 よこ たはじめ 横田宗



PROFILE

1976年、東京都八王子市で生まれる。高校1年生のとき、知的障害者施設でボランティア活動を始め、その後、老人ホームや留学生支援の団体で活動を行う。高校3年生のときにピナトゥボ火山噴火で被災したフィリピンの孤児院の存在を知り、単身訪問する。帰国後、ACTIONを設立。大学進学後もアフリカやインドなどの孤児院を回り支援活動を行う。現在は、孤児院、盲ろう学校の支援や貧困地域の保健衛生・教育活動を行うとともに、青少年育成の一環として2000人以上の若者をボランティアとしてフィリピンへ引率。1年の半をフィリピンで過ごし、国内では教員と国際理解の授業作りを進めるほか、学校・行政などで講師を務める。また、極真会館フィリピン支部マグサイサイ道場責任者として、武道を通じての青少年育成を行っている。

「将来こんなことがしてみたい。」「こんなチャレンジをしてみたい。」「でも、失敗したらどうしよう。」「ぼくになんてできないかもしれない。」「そんなことを思ったりしたことはありませんか？」
ぼくは十五才のときにボランティア活動を始めた。十八才のときにフィリピンの子どもたちをサポートするNPOを作りました。それから十五年間、東南アジアやインド、アフリカ、東ヨーロッパと様々な国で孤児やストリートチルドレンをサポートする活動が続けてきました。そして色々な国に行くと「みんなの夢は何ですか？」という質問を子どもたちにしていきます。
「将来の夢はお医者さん！」と言っていたフィリピンの小学生がいました。小学生だけど英語を上手に話し、学校でも成績は優秀。でも、その子の家は貧しくて中学校に行くことができませんでした。お医者さんになるためには、大学を卒業して資格を取らなくてはなりません。だから、その子の夢がかなうことはありませんでした。でも、もし日本に生まれれば、多くの人の命を救うお医者

さんになっていたかもしれません。
すべての人間は、生まれながらして良いところを必ずもっている。ぼくは思っています。それはちゃんと平等に与えられていると思いません。でも、その良いところを使う環境は、平等に与えられていません。どの国でも、天才と呼ばれるような人は、環境にもあまり左右されず自分の道を切り拓いていけるでしょう。でも、ほとんどの人は、生まれた国で将来が大きく左右されてしまいます。日本に生まれた君たちには、沢山のチャンスがあります。自分の夢に向かってチャレンジするチャンスです。「うまくいくかな？」「失敗するかな？」と考えられるのは、君たちが多くのチャンスをもっているからなのです。
貧しい国では、生まれながらにして、将来の夢に向かってチャレンジすることができない子どもが多くいます。君たちは、成功するか失敗するかは別にして、チャレンジするチャンスは沢山あります。ぼくはそれを「チャレンジ券」と呼んでいます。「チャレンジ券」を、君たちは何百枚ももつ

ています。恵まれない国の子どもたちは、何十枚しか「チャレンジ券」をもっていないかもしれないかもしれません。

そして、君たちがもっている「チャレンジ券」は、君たちが作ったものではありません。お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃん、日本の歴史や文化が長い時間をかけて少しずつ枚数を増やしてきたのです。君たちはそれを使わせてもらうだけ。今まで多くの人たちが、君たちにくさんの「チャレンジ券」を残すためにがんばってくれたのです。

何千万人という君たちと同じ年の子どもたちが、内戦や飢餓、貧困によって、日本に生まれたらかなったかもしれない夢をかなえられずに命を失っています。そんな子どもたちが、たくさんチャレンジ券をもっている努力をしない子を見たら、きつとこう言うでしょう。

「ぼくたちと代わってほしい」
「代わりにそのチャレンジ券を使って、夢に挑戦させてほしい」

だから、君たちには、外国の子どもの方まで、自分のしたいことに思いっきりチャレンジしてほしいと思っています。そして、何かにチャレンジするたびに、たくさん「チャレンジ券」を残してくれた人たちに感謝をしてください。夢があってもチャレンジできなかった多くの命を思い出してください。

ぼくは、小学生のとき、勉強が大の苦手でした。落ち着きもなくて、いつも担任の先生の横に座らされていました。今までにぼくが世界で出会った子どもたちは、ぼくが小学生のときの何倍もがんばって勉強していました。家族の手伝いもしつかりやっていました。その子たちを、今でも尊敬しています。

ぼくの夢はそんな子どもたちの「チャレンジ券」を増やすことです。もちろん、日本の君たちの「チャレンジ券」も、もつともっと増やしたいと思っています。だからこれからも、夢に向かってチャレンジしていこうと思います。